

平成 28 年度 KK2「デジタル公民館まっさき」5月活動報告 / 避難所運営ゲーム

①発表と質問回答

●A チーム

・発表：避難所を小さな城下町風（通路や十字路があり、中心部に集まる場所がある）にしたいと考えました。しかし、実際にやってみたら、いろいろな人が入ってきて、なかなか思うようにできませんでした。一番苦労したのは、子供とお年寄り病人、ペットを持った人です。一番安心したのは、トイレが届くという発表があり、ホッとしました。

・質問：ペットのことは、どのように決めたのでしょうか？

・回答：中に置くか、外に置くかで、ちょっともめました。猫とか小鳥くらいなら中、犬はどうしても中は無理じゃないかということで、外に置くようにしました。

●B チーム

・発表：避難者の配置で考えたのは、多くの物資を搬入しやすいように、入り口付近・ステージは開けておくことです。ペットはやはり入口付近に配置しておきました。子どもがいる世帯とお年寄りは、全体で見守るように、一般の人たちと一緒に体育館の方に配置致しました。一般の人よりも体が弱い方は教室の1階部分 101 に配置。急病人用に保健室は空けておき、隣の応接室に重度の病人を配置することにし、3,4名配置しました。また、外国人は2Fの1部屋にまとめたので、安心してくれたと思います。

・質問：入口近くとステージを避難物資の関係で空け、そのスペースは具体的にどうするお考えでしたか？

・回答：基本的にステージは救援物資の置き場、入口は、一時そこで作業するために空けました。実際に救援物資が来れば、入口と入口付近に一時置きますね。そういう作業をしやすいようにスペースを空けておきました。それから、救援物資をステージに上げて保管をする。作業の流れも考えて、そのようにしました。

●C チーム

・発表：学校の間取りやグラウンドの状況を代表者が把握することで、緊急事態になったときに混乱なく対応できると考えました。本来は、事前に確認しておく必要があると思いました。それから、本部や救護班、乳幼児の授乳場所など、絶対に必要となる部分については予め決めておかなければならないと思いました。また、4地区の代表（世話人）や組織体制を予め把握しておいて、その方たちと連絡を取らないと、安否確認など実際に行うのは難しいと考えました。

・質問：病人にはどのスペースを割り当てましたか？

・回答：保健室にしました。

・質問：保健室のみですか？手前にあるスペースはどうしたのでしょうか？

・回答：あとは会議室もあります。それから2階の教室をと漠然と考えてみましたが、人数の把握ができていないので明確にするのは難しかったです。人数の把握などしっかりしておかなければたいへんだと感じました。

●Dチーム

・発表：通路を最初に決めて、体育館の効率的な配置を最初に考えました。元気な人は出入口の近くに配置し、お年寄りや奥の方に配置しました。車を持っていて車で生活したい人達は、風向きなどに配慮して、駐車スペースを確保しました。持病を持っている方にも風が直接あたることのないように配慮しました。病人やその関係者等については、保健室の近くの部屋を確保しました。応接室等は、避難所の本部的な役割を持たせました。

また、旅行者は比較的丈夫な方々なので、教室に男女別のスペースを取りました。アメリカからの旅行者は2階の教室までスペースをのばして配置しました。ステージは、新聞社対応や、授乳室的な役割にも使えるように考えました。212人ほどの避難者をだいたい収容できました。

・質問：ペットを飼っている人についてはどの様に考えられていますか。また、4地区からどっと避難者が流れ込んできた場合、少し時間がたたなければ同じ地区の方をひとまとめにするのは、なかなか難しいと思いますが、いかがですか？

・回答：初めは避難者数などわからないので、とにかく地区割りスペースを確保して受け入れます。病人、子供、ペットも一緒です。その後、人数が把握できた段階で移動してもらう考え方で進めました。ペットは、ある程度の数の確認が取れた段階で移動させるということです。

・質問：ペットは部屋の中にいたのですか？

・回答：一応 30~40 (匹) の空きに入れて、目印をつけて、全部終了できた段階で配置を変更していこうという前提です。

●Eチーム

・発表：私達は時間内に全員収容することができませんでした。非常に判断に迷うところがあり、すごく難しいと感じました。まず、受付の存在が大事だろうということで、受付を作って、そこでできるだけ記録をとるようにしました。名簿とおむつなど必要となるものをすべて記録するようにして、それらの情報を掲示板に集約しました。

それから、若い人たちは受付近くに配置し、運営を手伝ってもらうようにしました。子供だけで避難してきた場合、やはり受付の目の届く範囲に配置しました。後で、民生委員を近くに配置し、面倒をみてもらいました。

1階の教室に障害者、保健室には怪我人、病人を配置しました。しかし、いっぱいになってしまったので、隣の応接室にも入れました。旅行者や外国人には、部屋を1つ割り当てました。物資類はステージに置きました。着替え部屋として器具庫をあてました。

地区の事をあまり意識していなかったのですが、実際はやはり顔がわかるような方たちがいたほうが良いだろうということで、これは反省しています。また、ほかの班でも出ましたが、ペットの対策は難しいと思いました。ペットを飼われている方はご家族という考え方だと思いますし、そうでない方もいますので、そこは非常に判断に迷うところでした。

・質問：受付記録をとるということですが、いつ受付をされるのか。現実には避難者がどっと来て、体育館等に入る時に受付けていたのでは避難者を待たせてしまう。まず入れて、落ち着いたところでも良いのではないですか。

・回答：そうですね。私たちは受付を済ましてから入っていくことにしましたが、非常に判断が難しいところだ

と思います。記録の重要性を思い、特に時系列で記録をとっていくことに重きを置きました。受付は、実際、その場で判断せざるを得ないのかなと思います。

② ファシリテータによるまとめ

報道による避難所の様子

(避難所の報道写真を示しながら) この避難所(熊本地震 ある避難所)の写真は整然としていますが、通路幅を見ると、人がすれ違える程度ですね。(避難所の報道写真を示しながら)こちら(阪神淡路大震災 ある避難所)は通路が確保されておらず、避難所全体が混然としています。(避難所の報道写真を示しながら)これ(中越地震 ある避難所)は、通路が確保されていて、整然としています。コーンを立てて、通路の幅をキープしています。この幅は、車いすの方が移動できる幅です。

ある班は、高齢者に対しては、体育館の奥側に入れて、外の壁に触れないように配置していました。一方、ご高齢者はトイレが近く、トイレを我慢してしまうので、足の不自由な方はできるだけ出入口近くの方が良いだろうという考え方もあります。どちらが正しいかは、答えはないのです。地域の事情で、足の不自由な方が多いのか、車いすの方が何人いるのか。もし車いすがなければ、通路は広い幅をとる必要はないわけです。

また、体育館のステージを物資のスペースとして空けておくという意見がありました。ということは、避難者の間を段ボールを持って、何度も往復することになります。その時どうするか。通路の幅は広くとりますね。幅を広げるとということは、避難者のスペースは狭くなり、収容人員は少なくなります。答えはないのですが、そういうことを考える必要があるということですね。(避難所の報道写真を示しながら)この写真(熊本地震の避難所)の奥は若干スペースがあります。ところが、前方はぎっしりです。あのスペースを使ったらどうなりますか。(避難所の報道写真を示しながら)これは(熊本地震 避難者間を段ボールで区切る)、だいぶ時間が立ってからです。段ボールが届いてから、プライバシーを確保しました。時間の経過に伴って、食事に対するニーズも、プライバシーに対するニーズも、より快適さが求められます。こちらでは、後から畳が配布されます。

自己紹介

【葛西章広(カサイアキヒロ)】

H27年度大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会委員



【所属】

特定非営利活動法人日本防災士会

千葉県北部支部

防災士(No. 1088878)

一般社団法人SL災害ボランティアネットワーク

船橋SLネットワーク

上級セーフティリーダー(No. 03-1-1038)

船橋市アマチュア無線非常通信協力局(船橋市委嘱業務)

局長(JI1FCY)

特定非営利活動法人千葉レスキューサポートバイク



【活動】

千葉県において、避難所運営ゲーム(HUG)の他、目黒巻き、クロスロード、倒壊家屋からの救出訓練、応急手当て等、市職員、社協、公民館、地域防災リーダー等に対する防災教育・訓練支援・参加協力及び啓蒙活動を実施中。

*どこ竹@武蔵野三鷹 in まっさき 竹とんぼリーダー
モビリア仮設、ふるさとセンター竹とんぼ教室、ミニ門松づくり



霞が関
ナレッジ
スクエア

「末崎町の第二避難場所リスト」

これは大船渡市が公開している末崎町の避難所のリストです。そのリストの何をみているかというと、畳があるかないか、暖房があるかないか、水があるかないか、炊事、車の出入りがあるかないかと、収容人数ですね。収容人数が200、300、大ぜい入れるのは学校体育館です。ところが、体育館には畳がないのです。それをどう考えるか。ちなみにふるさとセンターでは、体育館は物資を入れる場所、避難者を受け入れるのは一階の和室の畳の上とのことです。

末崎町の第二避難場所(避難所)

避難場所	管理者	対象地区	収容人員	車出入	炊事	飲料水	暖房	畳
ふるさとセンター	地区公民館長	地区本部、峰岸、内田、細浦、神坂、中野、平、小田、小河原	200	可	有	上	有	有
末崎中学校(屋内体育館)	校長		300	可	有	上	有	無
船河原公民館	公民館長	船河原	30	可	有	上	有	有
長源寺	住職	内田、細浦	50	可	有	上	有	有
熊野神社(神坂)社務所	宮司	神坂、小細浦	50	可	無	上	有	有
末崎小学校(屋内体育館)	校長	小細浦、小河原、門之浜	300	可	有	上	有	無
碁石地区コミュニティーセンター	公民館長	中井、西館、泊里、碁石、三十刈、山根	100	可	有	上	有	有
梅神公民館	公民館長	梅神	30	可	有	上	有	有

作戦会議で（事前に）決めること

ゲームの場合、参加対象者によっては、作戦会議ではこういうことを決めて下さいと宣言することがあります。一番重要で、基本的なことは、出入口を確保すること。出入口から通路の線を引くということです。中越地震の写真では、コーンを立てていました。そこには避難者を配置しないと決めています。これが基本中の基本です。それから、駐車場所、駐輪場所、炊き出しの場所、ゴミ捨て場所、トイレの場所を配置します。熊本地震でも、ある避難所で仮設トイレの場所を決めていませんでした。便利だから、足の悪い人の近くに仮設トイレを置いたのです。そのため、のちにノロウィルスや、感染性を発症して、トイレの場所を移しました。だから、そういうことを予め決めておかないと、思いつきで決めると、後でとんでもないことになってしまうこともあります。

その地域のロケーションや避難者の身体状況などを考えて、この場所では何を大切に、基本にするかを考え、決めておかないといけません。

末崎地区は、小学校、中学校を避難所に指定していますが、今回の事例のように、教室を使わせることは想定していません。小学校、中学校で使わせるのは、体育館だけです。。それは、一日も早く子供たちに、普段通りの教育を受けさせるためです。もしそこに人を配置しておいて、生活を始めさせてしまうと、新しい生活がそこに生まれますから、しばらくは立ち退かせることができません。そうすると、ずっと子供たちの教育ができないことになります。それは、その地区の考え方です。それから、利用を禁止すべき部屋があることです。有事の際は、人命救助が個人情報に優先するという考え方ですから、個人情報保護法の適用範囲外です。しかし、例えば、校長室や職員室に避難者を入れると、生徒の個人情報がありますから、避難者の個人情報は見ても良いことになっていますけれども、生徒の個人情報を避難者が見ることは良しとされません。校長室や職員室は利用禁止。また、理科の実験室、工作室は危険なので利用禁止。これは、地域の実情をみて、皆さんで話し合っ決めて決めることです。正しい、間違っているということではありません。

作戦会議で(事前に)決めること

1. 敷地配置

- ①物資等の搬入口・経路
- ②駐停車・駐輪場所
- ③炊き出し場所
- ④ゴミ捨て場
- ⑤その他(任意)

2. 教室

- ①利用禁止教室の指定(理由)
- ②利用可能教室の用途指定

3. 体育館

- ①出入口の変更不可
- ②通路の確保(線を引く)
- ③受付の設置(関連備品・資機材の設置)
- ④その他(任意)

4. 避難所内のゾーンニング基準

- ①人(住所・世帯人数・性別・年齢・健康状態等)
- ②動物(盲導犬・ペット)
- ③物(飲料・食糧・衣料・その他)

5. その他

- ①避難所に必要な機能
- ②避難所に必要な物
- ③無くて困った物
- ④あって助かった物
- ⑤その他アイデア

避難者の配置

避難者は4つの地域から来ますので、地区毎に配置を決めて、その地域の中で誰を外側に、誰を奥に配置するかを決めます。高齢者がいる、障害者がいるからといて、全員入り口付近、全員通路側というわけにはいきません。それをどう考えるかということです。是非、またこのような機会を作って頂いて、あの時を振り返って、本当に困ったことは何だったのか、あの時はよかれと思ったけど、後になってたいへんだったことなどを、書き出し整理していただければと思います。

避難所運営の課題

理想論はたくさんあると思います。隣の陸前高田市では、防災計画があって、それに対応した避難所運営マニュアルを作っていて、今日皆さんが困ったことを陸前高田市はこう考えるということが書いてあります。これをもとに、避難所毎に必要なことを決めていくことになっています。今後、大船渡市についてもマニュアルが作られると聞いています。

理想論はたくさんありますが、その場の限られた人で決めなければなりません。限られた場所、限られた支援者、限られた物資。やっぱり優先順位があると思います。先に来た人から先に入れる。その時は基準が人だということです。それから備蓄品もさきほどのリストによりますと、あそこの防災倉庫に入っています。それを誰が空けるんですか。何食分あって、何人来た時にどういう順で分け与えるんですか。全部の量を頭数で割るんですか。とにかく、限られた環境でやらなければいけないので、事前に取り決めておかなければいけないのです。

避難所運営の課題



地域内外から優劣の付けにくい個別事情を抱えた人々が、次々に逃げ込んで来る状況で、いかに「合理的」にさばき乗り越えるか。

避難所運営のルールと限界

マニュアルについてお話ししましたが、素晴らしいマニュアルを書けば書くほど、完璧になればなるほど、使い物にならないのも事実です。発災したときに、百科事典を読むのですか。目の前に患者が来ていたら、医学全書を医者が読むのかということと同じです。災害時はすぐに対応していかなければなりません。基本的な共通的な考え方、それを合意するということです。それで、実際はですね、市役所の方、役員の方も含め、全員が被災者なのです。全員が避難していたら、目の前に家族がいたら、家族を後回しにして他の人を助けていくということではないですね。最初に自分を守って、家族を守って、そして避難所に行って、みんなを守るという順序が大事なのです。やはり、その場に居合わせた人がやるしかないのです。

今日の基本方針でしたけれども、よき運営者になり、よき避難者になる。そのためには日頃から過去を振り返って、こういう状況が起きるから、どうしようかということをお互い合意形成していく。そういうことだと思います。

避難所運営のルール限界と訓練

【地域防災計画】
【避難所運営マニュアル】



全ての事象を網羅的に記録することは困難

【教育・訓練】



網羅性が高まれば、教育・訓練が困難

【全市民が被災】
【全市民が避難】



被災現場ではマニュアル参照は不可

実際に行動できるように、マニュアルを踏まえて、実際にはどのようなことが起きるのか、想定しながら地域住民が話し合っ、避難所運営訓練を行うことが必要。

平時における心得

大船渡市がまとめている平時における心得です。「防災訓練等へ積極的に参加する」と書いてあります。それは、今日のようなイベントがあったら、積極的に参加し、積極的に聞いて、積極的にご自分が体験なさったことを知らせることが大切なことだということです。

平常時における心得

- ①避難場所、避難道路等を確認する。
- ②3日分の食料、飲料水、携帯トイレ、トイレトーパー等の備蓄及び非常持出品(救急箱・お薬手帳、懐中電灯、ラジオ、乾電池等)の準備を行う。
- ③いざというときの対処法を検討する。
- ④**防災訓練等へ積極的に参加する。**
- ⑤災害時の家族内の連絡方法や避難の仕方を決めておく(家族間の連絡カードの携帯)。
- ⑥愛玩動物との同行避難や避難所での飼育の方法を決めておく(動物アレルギー、トラウマ、嫌悪感を持つ方との調整)。



その他の防災訓練・ゲーム等

今日は HUG (ハグ) という避難所運営ゲームを体験頂きました。HUG ような防災訓練のためのゲームには様々なものがあります。クロスロードというのは、その人に対して次々に問題を突きつけていくのです。数秒のうちにイエスかノーか即座に判断していきます。日頃から相当考えていないと判断できません。いかに考えていないかが露呈してしまいます。図上訓練というのは、末崎なら、末崎地区の地形を描いて、どこに問題があるか、地図に記載したり、グラフ化したりします。目黒巻きというのは、発災が起きたら、あなたは1分後何をしますか。あなたは5分後どうしますか。1時間後あなたは何をしますか。その夜あなたはどうしていますかということをお自分で連想させて、書き出させるトレーニングです。

シェイクアウト訓練は発災が起きたらとにかく頭を守るということを、即座に全員で行う訓練です。今後地域の活動の中で、企画をする時に、今日のような HUG を何度もやっていくこともすごく重要なことですし、いろいろなことを疑似体験することとても重要なことだと思います。時々思い出して、企画なさってくださいね

思います。

また、私は、次のような活動もしています。

「ブルーシートで三角テントをどうやって作るか。」

「じゃがりこポテチサラダを作る」。あのじゃがりこをビニール袋にでも、サランラップにでも入れて、ひっくり返してつぶします。それをもう一回じゃがりこのカップに戻します。そこに熱湯を注ぎながらかき混ぜていくと、ポテトサラダができます。是非、お試しください。

それから、非常用炊き出し袋、特殊な袋ですが、そこに無洗米をいれて、米と同量の水をいれます。それを30分浸しておいて、30分鍋に入れるだけで、ご飯ができます。同じようにパスタ。パスタを2つに割って袋に入れます。そうすると、パスタができます。お皿が汚れないで調理や食事ができます。いろいろなメニューがありますので、ぜひ、こうした企画のお手伝いもさせて頂きたいと思います。

今日の訓練の内容は、この「デジタル公民館まっさき」というサイトに掲載されますので、ぜひ、アクセスしてください。子供たちの未来のためにということで、HUGのまとめとします。どうもありがとうございました。

その他の防災訓練・ゲーム等

【クロスロード】



【災害図上訓練DIG】



【目黒巻き】



【さすけなぶる】



【シェイクアウト訓練】



【ダイレクトロード】



- 【ブルーシートの三角テント作り】
- 【「じゃがりこ」で作るポテトサラダ】
- 【非常用炊出袋で作るご飯・パスタ】

以下、当日の避難所運営ゲーム（HUG）体験会の様子。



